

〈リレートーク〉多文化共生の未来を創る，取り組み紹介

## Vol. 2 順天堂大学保健看護学部 やさしい日本語部



(左上) 2025年5月 三島市国際交流協会主催イベントの様子

(右上) 2024年7月 多文化共生わかものフォーラム in しずおかの様子



### 活動内容

#### 〈部活紹介〉

「やさしい日本語部」は、やさしい日本語の実践と普及をテーマに、様々な活動を行っています。また、三島市国際交流協会に所属し、地域のイベントの企画・運営に参加したり、在住外国人学生らへの学習支援ボランティアをしたりしています。

#### 〈Instagram の URL〉

[https://www.instagram.com/jun\\_yasa?igsh=ZzU1MHhsempxN2F0](https://www.instagram.com/jun_yasa?igsh=ZzU1MHhsempxN2F0)

#### 〈部活誕生の経緯〉

「やさしい日本語部」は、2020年度に、当時1年生である学生が、「将来医療職者になる本学の学生がやさしい日本語について学ぶことで、より良い医療やケアの提供につながるのではないか」と考え設立しました。最初は2人の同好会から活動を始め、現在は部員10名で活動しています。

### 活動について

私たちは主にやさしい日本語を「学ぶ」「活用する」「普及する」の3軸で活動しています。

#### 「学ぶ」

「学ぶ」では、やさしい日本語への理解を深める取り組みを行っています。たとえば、外部講師をお招きし、講義を受ける機会を設けています。講義では事前に『受診する』などのテーマを設定し、在住外国人からよく挙がる問題点や、言い換えの工夫などについて教えていただいています。やさしい日本語にはこれが正解だという形がありません。様々な講義を通して、多様な視点や考えに触れることができています。また、受け身の学習だけでなく、自分の言葉の使い方を見直し、相手にどう伝えるかを考えるきっかけにもなります。

講義以外にも、実際にやさしい日本語を使用している施設への訪問研修を行っています。これまでに科学館や美術館、防災館を訪れ、施設見学や担当者へのインタビューを実施しました。東京消防庁池袋防災館の『やさしい日本語防災体験ツアー』に参加した際は、一文を短くすることで、その文章内で最も伝えたいことが相手の記憶に残りやすいということを実感しました。



組みました。ワークショップは、講義と練習問題を組み合わせて行い、練習問題に取り組んだ後に振り返りをして理解を深めることを重視しました。参加者の理解度を踏まえて進行する必要性や、「伝える」だけでなく「伝わる」工夫の重要性を強く実感しました。

#### おわりに

私たちは「学ぶ」「活用する」「普及する」の3つを軸に、やさしい日本語の理解を深めてきました。様々な取り組みを通して、やさしい日本語は単に言葉を簡単にするのではなく、「相手に合わせて伝わるように工夫すること」であると強く感じています。子どもたちや地域の方々と関わりながら、言葉がどのように伝わるかを意識し、臨機応変に対応する能力を日々学び続けています。講義や研修では、「正解のないやさしい日本語」に向き合う中で、柔軟な思考と多様な視点

を持つことの大切さに気付きました。また、地域や学内での普及活動を通じて、自分たちの学びを社会に還元していく意義も感じています。

今後は、医療・保健の現場でやさしい日本語をどのように活用できるか、より深く考えていきたいと思えます。医療が必要な方やそのご家族にとって、わかりやすい説明や、安心につながるコミュニケーションは欠かせません。これは、看護職を目指す私たちにとって重要な課題です。そのためにも、学内での普及活動をさらに充実させ、将来、医療・保健の分野で活躍する仲間たちにもやさしい日本語の必要性を伝えていきたいと考えています。今後も、「学ぶ」「活用する」「普及する」の取り組みを継続しながら、やさしい日本語を実践し、学びを深め、社会や医療の現場に活かせるよう活動していきます。